

ネットワーク研修会「防災と地域のつながり」

今年で9回目を迎えるネットワーク研修会は、「防災と地域のつながり」と題して、御所市生活安全課、課長の嶋谷辰也氏を講師に開催させて頂きました。

当日は、地域包括支援センターや各施設・事業所、民生委員・老人会・生活介護支援サポーター、御所市消防署、御所市郵便局など多数のご参加を頂きました。

始めに、在宅介護支援センターからは、事前に実施した「防災のアンケート」を基に42%の方が「避難場所を知らない」「防災訓練に参加したことがある方」は11%だったが、65%の方が「機会があれば防災訓練に参加したい」という結果から、「今後、様々な地域で防災に関する啓発の機会を作る必要がある。このネットワーク研修会も、その機会の場となればと思っています。」と伝えました。



続いて嶋谷氏より、「御所市の場合も、近年の海水温度の上昇による台風件数の増加や、中央構造線断層帯の活動により、今後、水害や大きな地震が起こる可能性がある。」と伝えられ、今年の5月に起こった熊本の地震の様子が写真で紹介されました。そして、災害時の避難場所やルートの確認が必要なこと、地震では家具類の転倒・落下によって負傷する人の割合が高いことが説明され、「自分が被害を受けることで家族や周りの人を助けられなくなります。阪神淡路大震災では、家の下敷きになった人々の多くを助け出したのは家族や近所の人たちでした。地域のつながりが人の命を救います。みなさんの集まりが、地域を守り、命を守ることに繋がります。」と会場に「地域の繋がり」の大切さを投げかけられました。



最後に、「日頃やっていることしか出来ない。日頃やっていないことは失敗する」と防災訓練の必要性を伝えられ、7/11に奈良県で行われるシェイクアウト訓練の紹介がありました。

「でくるしこでよかけん」これは、「できる分だけでいい」という意味の熊本弁だそうです。今回のネットワーク研修会では、いざというときの備えを「できる分だけ」でもしておくことの大切さ、人と人とのつながりが地域のつながりとなり、それが防災（減災）につながることを学ぶことができました。

